広報 なりた 新生成田の創造

成田歴史玉手箱

●54回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

## 成田への道－安食街道（後編）

# 俳人・一茶も歩いた道

写真1：山口地区の旧道に建つ道標を兼ねた石仏。後は滑河へ行く道

嘉永四年（1851）、上福田村の弟吉が成田山に参詣したときの紀行文の中に、現在の玉造の湯川車庫バス停付近から山口の雷神社前までの街道の情景が書かれています。昭和40年ころまであった千把ケ池にまつわる伝説、街道には並木が続き、茶屋では名物の三度栗や田舎饅頭が売られていたと記されています。また、湯川車庫の湯川という地名は、昔はお湯が流れていた川から付けられたものです。

雷神社からJR成田線の踏切間は鉄道が敷かれた後の道で、旧街道は雷神社前をほぼ直角に左折し、田んぼの中を通り台地の裾を回り現在の踏切の左に出ました。山すその四辻には「右なりた道・左なめかわ道」と刻んだ道標を兼ねた石仏（写真1）があり、滑河へ向かう細い山道は今ではほとんど利用されない道となりました。郷部排水場入口付近には、「こま木山道」の道標や「成田山奉納 永代護摩木山」と刻まれた石塔（写真3）が道の左側に建っています。こま木山＝護摩木山のことで、新勝寺で護摩を焚くのに用いる杉の木を切り出す山があり、現在の美郷台浅間公園あたりまでがそうでした。建碑者は武蔵野国（＝武州）埼玉郡岩槻の栗原講社などの信者です。台石には村名と名前がびっしりと刻まれています。この道を成田の人々は武州の人々が通るので武州街道とも呼びました。

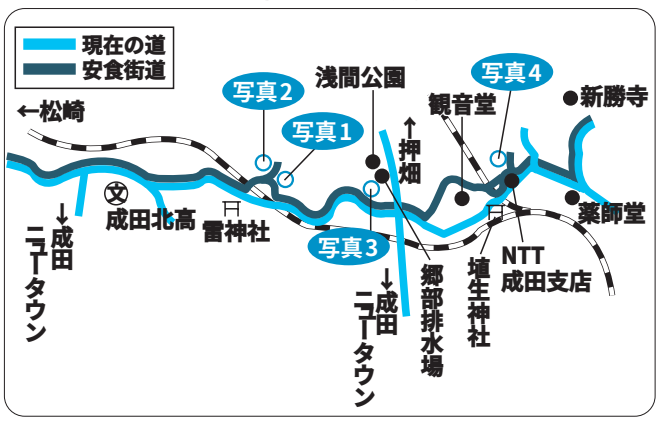
ほどなく大きな交差点となり右は成田ニュータウン、左は新しい街並みが広がる美郷台。旧街道は交差点を直進しすぐ左手の脇道に入り、観音堂を右に見ながら急坂を登りJR成田線をまたぐ郷部橋へ。橋を渡りすぐに左の路地に入ります。現在の観音堂は昭和63年に再建されたもので、以前は室町時代に創建され明治2年に廃寺となった神光寺のお堂です。ご本尊の聖観音菩薩は安産や子育ての観音様として今も多くの女性が訪れています。ところで神光寺の住職諦阿上人は、俳人小林一茶と親交があり、文化十二年（1815）に一茶が成田山参詣を終えたあとこの街道を歩いて木下（印西市）へ向かうときの道案内をしています。ＮＴＴ成田支店の裏道には、かやの大木の下に三竹山道祖神・道標を兼ねた十五夜塔・六地蔵など（写真4）があります。見事な枝ぶりは往時の街道のにぎわいをしのばせてくれます。

役目を終えた旧道は車や人の流れが少なくなり昔の面影や風情を残しています。ふるさと成田の再発見に善男善女の歩いた旧街道を歩いて見ませんか。

写真4：枝ぶりも見事な道祖神社前の旧道

写真2：線路で分断された旧道。左上の鳥居が雷神社入口

写真3：約4ｍある護摩木山の奉納碑




## 編集後記

本号の「どんなまち」ではしもふさ七福神めぐりを取り上げてみました。実は七福神めぐりは全国各地にあり、千葉県だけで16カ所も。それだけたくさんの人々に信仰されているということですが、いざ福の神の名前はと聞かれてもすらすらと言える人は少ないのでは。この機会に、自然の中を歩きながら七福神をおさらいしてみてはいかがですか。由緒ある寺社を回ることで歴史も学べます。もしかすると、自分だけの楽しみを発見できるかもしれませんよ。

広報なりたは再生紙（古紙配合率100%・白色度70%）を使用しています。